

地域における海岸美化への取り組みについて

「海をきれいにするための一般協力者の奉仕活動表彰」等の受賞者を紹介します。

本表彰事業は、沿岸域の住民、船舶の利用客等、海が大好きな皆様による、海をきれいにするための奉仕活動を顕彰し、国民の皆様により一層海への親しみを深めていただくとともに、海

の利用・開発、海洋環境保全への理解と協力を得て海洋・海事思想のより一層の普及を図ることを目的として、毎年、国土交通大臣及び各地方整備局長等が行っているものです。

以下、令和元年度の国土交通大臣表彰受賞者（地方整備局関係）及び地方整備局長表彰受賞者を紹介するとともに、その取り組み内容を一部紹介させていただきます。

令和元年 海をきれいにするための一般協力者の奉仕活動表彰受賞者一覧

| 国土交通大臣表彰 | | 各地方整備局長表彰 | |
|----------------------|-------|---|-------|
| 受賞者名 | ブロック名 | 受賞者名 | ブロック名 |
| 吉里吉里地区教育振興運動推進協議会 | 東北 | 外ヶ浜町立 三厩中学校 | 東北 |
| 外ヶ浜町立蟹田小学校 | 東北 | 八戸市立 南浜中学校 | 東北 |
| 能代清港会 | 東北 | 松島湾アマモ場再生会議 | 東北 |
| 大洗町立大洗小学校 | 関東 | 石巻市立 牡鹿中学校 | 東北 |
| 木更津市立金田小学校 | 関東 | 特定非営利活動法人 秋田パドラーズ | 東北 |
| 港区立港陽小学校 | 関東 | 一般社団法人千葉市建設業協会 及び 一般社団法人千葉県建設業協会千葉支部 | 関東 |
| ほのぼのビーチ茅ヶ崎 | 関東 | 特定非営利活動法人神奈川海難救助隊 | 関東 |
| 射水市立射北中学校生徒会 | 北陸 | 敦賀市立松原小学校 | 北陸 |
| アドプト・シーサイド・フクシマ | 近畿 | 有限会社シーフロント | 中部 |
| 岡田浦漁業協同組合 | 近畿 | 津市立 藤水小学校 | 中部 |
| 特定非営利活動法人海浜の自然環境を守る会 | 近畿 | 株式会社ヤマサ環境エンジニアリング | 近畿 |
| 黒崎中学校区青少年を育てる会 | 中国 | J X T G エネルギー株式会社和歌山製油所 | 近畿 |
| 武知 隆 | 四国 | 丸尾子ども会 | 中国 |
| 特定非営利活動法人水辺に遊ぶ会 | 九州 | 島くらす会 会長 松嶋匡史 | 中国 |
| 西の浜をきれいに集会 | 九州 | 青海島海岸清掃実行委員会 | 中国 |
| 長洲アーバンデザイン会議 | 九州 | 阿南市立椿町中学校 | 四国 |
| 公益社団法人唐津市シルバー人材センター | 九州 | 鴨庄漁協女性部 | 四国 |
| 和白干潟を守る会 | 九州 | 一般社団法人 日本塗装工業会 愛媛県支部 | 四国 |
| | | 公益財団法人 日本釣振興会 高知県支部 | 四国 |
| | | 伊予農希少植物群保全プロジェクトチーム | 四国 |
| | | クリーンK O Kクラブ | 四国 |
| | | 中国電力株式会社下関発電所 | 九州 |
| | | 東の浜里浜づくり協議会 | 九州 |
| | | 公益社団法人日向市シルバー人材センター | 九州 |

豊かな松島湾を次代へ繋ぐために

宮城県中央に位置する松島は、宮城のみならず日本を代表する景勝地「日本三景」の一つであり、それを形成する大きな要素は松の植生からなる多島海域「松島湾」です。また、湾に流れ込む大河がないことから太古より安定した地形と浅い海は、それを縁取るように縄文時代の貝塚や製塩の遺跡が出土し、里海の恵みによって地域が育まれてきたことを表しています。

2011年の東日本大震災はこの松島湾の環境を激変させると同時に地域の人々に海の怖さを刻み、気持ちを海から遠ざけました。しかし、2013年、未だ悲況に暮れる中にありながらも地域の有志により「とりもどせ!みやぎのうみ」をテーマに「全国アマモサミット2013 in みやぎ」

が開催され、アマモを海洋環境復興の象徴として全国のアマモに関わる市民活動の情報交換や交流の中から、津波によって砂漠化した松島湾海底の生物多様性を取り戻し、地域の人々が再び海へと親しみを取り戻す試みがスタートしました。

私たち松島湾アマモ場再生会議は、海と人との距離を再び縮め、良好な里海を後世へ繋ぐことをアマモの再生をとおりて取り組んでいます。春は島影のアマモの繁茂がみられる場所でその種となる花枝を採取します。夏の地引網調査はアマモが多く生き物のゆりかごになっていることが実感できる夏休みの人気行事に成長しました。秋は春に採取した花枝から熟したタネを選別し、その育成には市内の小学校の子どもたちにも携わって

らっています。

東日本大震災から8年が経過した今、全国から多くの支援を受けたこの被災地の海洋環境の復興の状況、また全国の多島海域及び浅海域環境への取り組みを相互に発表し、交流しながら次代へとつなぐことを目的として、2019年11月に再びこの地で「全国アマモサミット2019inみやぎ」を開催することといたしました。ぜひ多くの皆様のご来場をおまちしております。

第12回全国アマモサミット2019inみやぎ
令和元年11月9・10日(11:00~18:00)
塩竈市魚市場中央棟(塩竈市新浜町1丁目13-1)
お問い合わせ先 全国アマモサミット2019in
みやぎ事務局●tel022-364-1124
大会URL●<http://matsushima-amamo.main.jp/summit2019/>



地域の自然に触れ、環境を大切にしようとする児童の育成

金田地区は東京湾に面し、日本有数の自然干潟である小櫃川河口干潟(以降、盤洲干潟)を有する自然豊かな地区です。漁業や農業は以前より縮小されていますが、アサリやバカガイ漁のほかノリ養殖も行われています。地域性の強い活動や行事(千葉県無形民俗文化財である梵天立てなど)が多いのも特徴です。観光産業として、潮の干満差を利用した、簀立て漁や潮干狩りを楽しむことができます。一方で、大規模な都市計画により開発が行われ、様々な商業施設が次々と開業し、宅地造成も進み、漁業の町が大きく変化をしています。

本校は、年々児童数が増え、現在は全校児童206名です。転入生も多く、今後はさらに大きくなっていくと思われます。時々、学校敷地内にアカテガニが姿を現し、子どもたちは普段から、海の生き物に慣れ親しんでいます。本校は、日本でも有数の自然状態が保たれた盤洲干潟を有する金田地区の一員であり、盤洲干潟は、木更津金田地区にとって大切な自然の宝物ですので、全教育活動を通して、環境保全の意識を高めるとも

に、郷土の自然を愛し、自ら行動できる児童を育成する教育活動を実践しています。

そこで、干潟への関心や愛着を持たせ、環境を守ることの重要性を認識できるように、生活科や総合的な学習の時間に、6年間を通して金田が誇る盤洲干潟について学びとともに、年に2回実際に盤洲干潟に出かけ、自然と触れ合い、各学年の発達段階に応じた活動を行っています。

1・2年生は、「干潟で遊ぼう」というテーマで、干潟に「親しむ」活動に取り組んでいます。生き物ビンゴやカニ迷路、カニ釣り、カニレース等干潟の生き物と触れ合えるような遊びを考えて実践することで、干潟にはたくさんの生き物がいて、自然豊かな所であることに気づき、親しみを持つことができるようにしています。

3・4年生は、「干潟博士になろう」というテーマで、干潟を「知る」活動に取り組んでいます。貝・カニ・植物・魚のグループに分かれ、3年生では干潟にどのような生き物がいるか、その種類を調べることを中心に行い、4年生では生き物の生態について図鑑

やインターネットで詳しく調べることを行っています。干潟探検では、希少生物を見つけることもでき、多様な生物が生息していることを知り、干潟の必要性を実感できるようにしています。

5・6年生は、「干潟の環境調査隊」というテーマで、干潟についての理解を「深める」活動に取り組んでいます。5年生では干潟のごみについて現地調査し、どのようなごみがあり、どこから流れてくるのかを調べ、干潟を守るために自分たちができることを考え、環境を守るための新聞やポスター、パンフレット等にまとめています。6年生では、干潟についてこれまでに学習してきたことを踏まえ、他地域の干潟で起きている問題や環境問題を調べたり、干潟の大切さや楽しさを伝え干潟を守る気持ちを伝承していくことを考えたりしています。

また、これらの活動以外にもゲストティーチャーをお招きしてさまざまな講義や活動を行ったり、「盤洲干潟を守る会」主催の「干潟クリーン作戦」に参加したりしています。

このように、本校では盤洲干潟での学習を6年間通して取り組むことで、環境に対する豊かな感受性、環境に関する見方や考え方、環境に働きかける実践力の育成に努めております。これからの環境保全を担う子どもたちの環境を守る意識を高め、盤洲干潟を守っていけるよう、これからも継続して干潟学習に取り組んでいきたいと思っています。



「気比の松原」を守り育てるために

本校は、日本三大松原の一つである「気比の松原」に隣接しています。この「気比の松原」は、長さ約1.5kmにわたり、松原海岸の白砂青松のコントラストを描いています。広さ約40万㎡の中に、約1万7千本の赤松や黒松が生い茂り、国の名勝地となっております。夏場は、海水浴場として開放され、京阪神や中京方面から多数の海水浴客でにぎわいます。また、遊歩道も整備されているためウォーキングにも最適で、市民の憩いの場となっています。

本校の児童も、この松原公園内をマラソン大会のコースとして、また、日々の業

間運動の持久走のコースとして利用しています。児童にとっては、もっとも身近で愛着のある地域の自然です。

しかし、この松原の景観が徐々に変化してきています。そこで児童は、福井森林管理署、気比の松原百年構想推進連絡協議会、気比の松原を愛する会の協力を得て、気比の松原の歴史や植生遷移の仕組みを学びました。松を健全に育てるために、落葉による腐植層体積を防ぐ土壌づくりの大切さを学び、自分達の手で取り組める方策として松葉かき、ゴミ拾いを行っています。

今年は、5年生と6年生の児童135名が

参加し、松原内の約500㎡を、2人1組となり、熊手を使って落ち葉を集め、ゴミ袋に詰める作業を行いました。児童からは、「松の周りがきれいになってよかった。」「これからも気比の松原を守っていきたい。」「等の感想が聞かれました。

児童は、海浜等の美化活動に参加することを通して、地域の持つ課題に触れ、解決に向かう体験活動を行っています。

今後も、この大切な活動を継続し、地域の自然や行事、人との関わりの中で、地域に誇りと愛着を持つようになり、市民として「ふるさと」に貢献できる人に育つことを願っています。



ふるさとの海でこれからも続けたい海浜学習

藤水小学校は津市の東部、伊勢湾に面し、校区には藤堂藩に由来する「御殿場海岸」があります。「御殿場」は、江戸初期の地図にその名前が見られ、藩主の狩場あるいは漁場として、藩主の御殿が建てられていたことからその名がつけられたのではと推測されます。その当時(17世紀中期)から、この地では、藩主自らが「盾干し」という独特の漁をしていたようで、その頃に松が植樹されたようでした。「盾干し」は今なお、御殿場海岸、また近隣の海水浴場でレクリエーションとして行われており、本校でも海の自然に触れることや、歴史に触れることを目的に毎年6月に「海浜学習」として、全校児童で「盾干し」の体

験と海岸清掃活動を行っています。「盾干し」の体験学習は、地元のご高齢の方の話からも、おそらく戦前から行われていたのではないかと想像されます。

御殿場海岸から「あこぎ」という言葉の由来になった阿漕浦海岸まで、北に向かって白砂青松の海岸が緩やかな曲線を描き、津市民の憩いの場となっています。この美しい景観を守るため、本校も海岸清掃活動を行ってきました。この活動は、記録をたどる限りでは20年近く前までさかのぼることができます。国土交通省さんや地元の方のご協力・ご指導のもと、松の植樹も児童が行っていました。

本年度も「盾干し」体験を実施し、海岸

の美しい自然に触れることができました。子どもたちは「盾干し」でアジやタイなどの魚を手づかみで獲って楽しめます。本校の一年間で、子どもたちが一番楽しみにしている行事です。残念ながら、当日は天候が悪く、日程の都合で海岸清掃活動はできませんでしたが、子どもたちからは「掃除もしたかった!」という声が聞かれました。

2021年には、三重国体が開催され、御殿場海岸はビーチバレーボールの会場となります。来場される選手や応援の方々に「美しい海岸でしょ!」と子どもたちが胸を張って言えるよう、この活動を続けていきます。



NPO法人 海浜の自然環境を守る会の活動

NPO法人海浜の自然環境を守る会は個人、自治会、賛同企業からなる約100名の会員で構成され、主に甲子園の浜を拠点にするグループです。

かつて1970年代に甲子園浜一帯を埋め立てる計画があり、地域住民による反対運動によって和解、死守された経緯を持つ海岸線は、自然を残したいという住民の強い願いが認められたからです。

この地域はイワシ地曳き網の漁場として栄え、海水浴場として賑わった砂浜と、戦前にあった浜の阪神パーク跡が干潮時に姿を見せる磯と、地盤沈下で砂を入れて再生に取り組んでいる干潟が一望できる自然豊かな海浜を構成しています。

干潟はシギ、チドリ、カモ類の渡り鳥が

鋭気を養う「渡り鳥のレストラン」として見守りに協力しています。国から特別鳥獣保護区に指定され41年目を迎えました。

自然はあるがままの姿といいますが、何もしないでは守れないという観点から積極的に催しを企画し、参加を呼びかけています。

海をきれいにしたいという基本行動は清掃活動です。年に5～6回NPO主催の清掃日には毎回約100名程度ですが、昨年9月4日の台風21号では大量のゴミが漂着し、呼びかけに応じ後始末の清掃には260名を超えるボランティア参加がありました。日常的に散歩の傍らゴミを回収する人も多くて、浜を美しくの意識が高くなっています。

環境学習にも力を入れており、魚貝類の生きもの調査や浜辺に育つ植物の調査などは年間を通じて行われています。

小学生を対象にプラスチックゴミの回収と学習会、中学生を対象に自然を学ぶ「トライやるウィーク」、歴史を学ぶ遺跡探検、連風づくりや今年初めての夜の甲子園浜観察会は専門家の指導のもと網を入れてめずらしいものが捕獲され好評でした。

私たちの願いは多くの人に活動を通じて甲子園の浜に来てもらい、歴史のある甲子園の浜を守り続けて、次世代に引き継ぐことです。

理事長 前田文信



2019年6月 大阪湾生き物一斉調査の様子



2018年9月 台風21号後の清掃の様子



2018年11月 特別鳥獣保護区指定40周年記念展で見学の韓国からの学生たちに説明

中国地方整備局 ● 青海島海岸清掃実行委員会

美しい海岸景観を未来へ

北長門海岸国定公園の中心に位置する青海島は、周囲約40kmで、別名『海上アルプス』と称され、大自然が削り上げた洞門や断崖絶壁・石柱など数多くの奇岩・怪岩などの芸術作品が多く、まさにスケールの大きい自然美術館と言えます。

そんな青海島の景色を、陸上からは青海島自然研究路を散策しながら、海上からは青海島観光遊覧船に乗って楽しむことができます。青海島は、スキューバダイビングの良質なスポットとしても人気があり、その人気は口コミで広がり、今では県内外から多くのダイバーが訪れるまでにしました。青海島特有の地形や希少な浮遊系生物などを見ることができます。

しかし、近年、青海島沿岸における漂着

ごみの発生頻度及びその量は増加傾向にあり、島内のほとんどの海岸にごみが打ち寄せ、海岸線の景観を観光の目玉としている青海島では、観光振興や地域経済に多大な影響を及ぼす大きな問題となっています。

長門市では市民の手で美しい海岸線の景観を守るため、毎年7月の第1日曜日を「長門市海岸清掃の日」と定め、多くのボランティアの皆さんのご協力を得て、海岸清掃を行っています。

青海島海岸清掃実行委員会も平成14年からその一環として、船舶を利用した海岸清掃を行ってまいりました。

今年度も青海島海岸において、60人のボランティアの皆さんが海岸清掃に取り

組まれ、約650キロの漂着ごみを回収しました。

海岸にはペットボトルや発泡スチロールなど、多くのごみが打ち寄せていました。外国から流れてきたと思われるごみも目につきますが、圧倒的に多いのは日本国内で廃棄されたと思われるごみです。

青海島を訪れていただけるのは大変うれしいことですが、青海島の美しい海岸景観を保つため、釣りやレジャーにお越しになられた際には、ごみの持ち帰りにご協力ください。

我々実行委員会も活動を継続し、美しい海岸景観を未来に引き継いでいこうと決意をしています。



愛ビーチ・サポーター活動 ～身近な海辺を美しく保つために～

私どもは一般社団法人日本塗装工業会愛媛県支部と申します。年に3回ですが、松山市の堀江海岸のゴミ拾いの活動を行っております。この度は「海の日」に合わせて、海をきれいにするための貢献ということを認めていただき四国地方整備局よりの表彰をいただきまして、誠にありがとうございます。

私ども支部は、愛媛県内の塗装を生業とする会員60社程度で構成され、昨年

60周年を迎えることができました。主な活動は技能検定や、安全啓蒙活動、個人住宅の塗替えに関わるペインテナンスキャンペーン等を行っております。その中でゴミ拾い清掃活動自体は、平成21年7月に松山を中心とする中予地区会員19社でスタートいたしました。愛媛県の愛ビーチ活動にも登録し、現在は支部の普及委員会が担当して支部としての全体行事となっております。このところの参加者

は40社前後で推移しており、参加率をもう少し上げていきたいと思っております。毎回土曜日に開催しており、代わりを終えられた先代やご夫婦連れ、お子様連れでの参加もあり、他の支部行事と違った雰囲気です。ちょうど表彰をいただく直前の清掃では、支部で製作した横断幕も完成し、記念撮影も行うことができました。

近年、海洋のプラスチックごみも問題となっておりますが、私どもの塗装工事業というものも塗料という石油化学製品を扱うため、環境に負荷を掛けてしまう仕事となっております。会員各社それぞれ誇りと責任を持ち仕事を行っておりますので、海岸清掃ということで自然環境に貢献できる部分は非常に限られたものではありますが、今後も活動を継続して、環境に対する意識を持ち続けていきたいと考えております。

この度の受賞を励みに、担い手不足や労働環境改善などの課題克服と共に、自然環境への意識を持った取り組みを次世代にも繋げていけるよう活動してまいります。



中津干潟と集水域の豊かな自然を次世代に ～地域に根ざした保全活動

特定非営利活動法人水辺に遊ぶ会は大分県北部の中津干潟をフィールドに、地域の水辺環境を次世代につなぐための活動を行っています。初めて歩いた干潟で、カブトガニの赤ちゃんを見つけた時の感動を、たくさん子どもたちや市民の方と共有し、地域の自然を大切にしたいという思いを原動力に、1999年にスタートしました。

活動のメインは自然観察会や環境学習などの啓発活動と調査研究活動ですが、いつも楽しませてくれる海や干潟へのお礼を込めてビーチクリーンを開始しました。大分県の中津港西側に広がる大新田海岸で3回、大分県と福岡県の県境を流れる山国川右岸の三百間海岸で1回、年

4回実施しています。最初は5人で始めた活動ですが、市民の方々や地域の企業の皆さんがボランティアで参加してくださるようになり、今では年間で参加者が1000人をこえる行事となりました。

たくさんのおみなさんのおかげにより、中津の海岸は目立つごみがほとんどない状態になりました。また、常に人の目が入ることにより、以前は多かった不法投棄や家庭ごみの持ち込みも減少しました。しかし、よく見ると数ミリの小さなプラスチックごみがあるのが気になっていましたが、最近はこれらが極端に増加する傾向にあるように感じ、拾うだけでは解決しない海ごみ問題の現状に直面しています。ビーチクリーンと並行して、漂着ごみ調査

や、学校や社会教育の場での海ごみ問題をテーマにした環境学習も続けてきましたが、私たちのライフスタイルの見直しやプラスチック製品を適正に廃棄することなど、海に流入するプラスチックを減らすための啓発活動に更に力を入れて取り組む必要があると感じています。

この度は私たちの活動を表彰いただきありがとうございました。

